



しりかつどう けんしゅうぶ
自立活動・研修部インフォメーション

でんでんむし

れいわ ねん がつごう
令和2年12月号

あい ち けんりつおかざきろうがっこう
愛知県立岡崎聾学校

ふゆ ほちょうき じんこうないじ かんり 冬の補聴器・人工内耳の管理

12月に入り、寒さが一段と厳しくなってきました。冬場の寒い日々においても補聴器や人工内耳の管理で気を付けることが幾つかあります。暖かい時期は湿気や汗の対策が最大の課題でしたが、寒い時期はどのようなことに気を付けたらよいでしょうか。冬の管理の方法について、今一度確認してみましょう。

★ けつろすると、き聞こえにくくなる可能性があります

寒い日には暖かい家の中の窓やサッシに水滴が付くことがあります。これが「結露」です。この結露が補聴器や人工内耳にも発生します。結露は補聴器のチューブに溜まることや、補聴器や人工内耳の本体に付くことがあります。結露の発生には温度と湿度が関係していますが、簡単に言うと寒いところから暖かいところへ移動したときなど、急激な温度の変化があったときに起こりやすいのです。

結露による余計な水分が補聴器や人工内耳の性能に影響を与えます。では、どのように対策したらよいでしょうか。

結露による水分が補聴器のチューブに溜まると、音が聞こえにくくなる可能性があります。

そのようなときは、エアブローアーを活用します。

このように、差し込んで、シュツシュツと水分を出してください。



電源が入っておらず、内部も冷え切った状態で暖かい室内に持ち込んだ場合は、補聴器や人工内耳の内部に結露が発生している可能性があるため、すぐに電源を入れずに室温に慣らしてから電源を入れるように心がけましょう。

寝るときにきちんと乾燥ケースや乾燥剤を使って湿気を取っておくことが大切です。

★暖房機器の熱に注意しましょう

冬の寒さ対策にファンヒーターなどの暖房機器を使用することが多いかと思ひます。そのときに補聴器や人工内耳を暖房機器の近くに置かないよう気を付けましよう。補聴器や人工内耳に使われているプラスチック系の材質は熱に弱く、長時間熱いところがあると変形してしまうことがあるようです。



★空気電池は寒さに弱いです

補聴器や人工内耳で使用する空気電池は、気温が低かったり、湿度が下がっていたりする冬場により早く消耗してしまひます。また、暖房機器を使っていたり、換気をしていなかったりして空気中に二酸化炭素が多い環境でも、使用できる時間が短くなると言われています。したがって、交換用の予備の電池は必ず持ち歩くようにしましよう。冬の寒さに関係なく、空気電池は他の電池と違って出力が急激に弱くなる性質をもっています。電池がなくなつたときに交換用の電池を持っておらず、補聴器等が使えないということがないようにしましよう。

そして、気温が低い時期は空気電池の反応が遅くなることもあるようです。

- ・新品の電池を入れても補聴器等が作動しない。
- ・まだ、残量があるはずなのに電池交換のサインが出てしまふ。
- ・朝起きてすぐ電源を入れようとしても電源が入らない。



このような現象が起きた場合は電池を取り出し、手の平で少し温めてから使用するようになようしましよう。

【1月・2月の補聴器相談日】

※ 場所: 作法室

時間: 13:45~15:45

	1/18	2/1	2/15
理研産業	○	○	○
岡崎ヒヤリング	○	○	
ナショナル補聴器	○		○
あいち補聴器	○		○

1月の補聴器相談は1回のみです。緊急の場合には、店舗へ相談に行きましよう。店舗に行く際は、予約をしておくとスムーズに対応していただけます。